

# 九九指導Q&A

Q1

九九の定着はどのように見とればよいですか?



A1

段ごとに「検定」をしてチェックしましょう!



「九九のカード」を使って覚えた後には、段ごとに、正順（□×1から順番に）、逆順（□×9から順番に）、ランダムの方法で暗唱できるかをチェックします。チェックのためにはチェック表を用意するとよいですね。チェック表には、「保護者」や「クラスの友だち」などの欄をつくり、その人の前で暗唱できたらサインをしてもらいます。サインが埋まったら先生の前で暗唱する「検定」です。検定に合格したら「九九のカード」の付録（※）の「合格カード」にシールを貼ってあげると、やる気が出ますよ!

※ご採択の「九九カード」がPAの場合。

## もうひと工夫!

私の学校ではチェック表に「上級生」の欄を入れています。九九の学習の前の全校朝礼で「2年生が上級生に九九を聞いてもらいに行くので、聞いたらサインをしてあげてください。」と伝えます。そうすることで、3年生以上の子たちも「しっかり九九を復習しなければ」と気を引き締めています! 学年を超えた学校全体の交流の機会にもなりますね。

また、2年生の子がいろいろな人に聞いてもらいに行きやすくするために、チェック表の裏側に「○年○組の○○です。○の段の九九を聞いてください。」というような台本を印刷してあげるのも効果的です。

# 九九指導Q&A

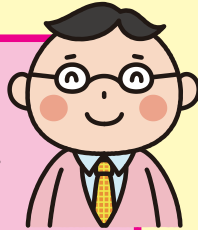
Q2

「九九のカード」はどのタイミングで配ればよいですか?



A2

2, 5, 3, 4の段の学習が終わってから配るのも◎!



九九の学習の最初から「九九のカード」を配ってしまって、それぞれの段ごとに練習するというのもよいですが、1単元目の2, 5, 3, 4の段の学習の後に初めてカードを配るという方法もあります。2, 5, 3, 4の段の学習時では、初めて九九に出会う場面なので丁寧に教科書やプリントで学習し、九九の学習に慣れてから「九九のカード」を使った習熟をさせるという方法です。カードでの習熟に慣れてくると、児童も自主的に家庭などで練習してくるようになりますよ。

## もうひと工夫!

カード1枚1枚に名前を書かせたい場合は、九九の学習の前に予め配っておいて各家庭で名前を書いてもらうとよいでしょう。上記のように学習の途中で配りたい場合は、いったん回収し、その後指導に合わせて配ります。

また、「九九のカード」についている予備のリング(※)を使った活用法もあります。学習中の段だけを予備のリングに通して使うと、その段だけを集中して練習することができます。段の中で順番をバラバラにして「ランダム」の問題としてチャレンジすることもできますね。

※ご採択の「九九カード」がPAの場合。

# 九九指導Q&A

Q3

九九の学習を活用したおもしろい教材があれば教えてください。



A3

## 「九九表パズル」はどうでしょう?



「九九表パズル」とは、九九表をいくつかのピースに切り分け、それを並べて九九表を完成させるパズルです。完成させる中で、九九表上の数の関係に着目し、いろいろなきまりを見つけるなど、九九を復習しながら楽しく学ぶことができます。

「九九表パズル」は光文書院のwebサイトからダウンロードすることができます。九九表に入った太い線で切り分けてピースをつくり、それを答えの入っていない白紙の九九表の上に並べていきます。ピースの数が少ないものや多いものも用意されているので、クラスや児童の実態によって使い分けてもよいでしょう。

## もうひと工夫!

低位の児童には、ピースを置く九九表にも工夫をしましょう。白紙の九九表の上ではなく、答えの数の入った九九表の上に置かせると、低位の児童でも取り組みやすくなります。九九表の数を見ながらどこに置くのか考えることも大切な活動といえますね。

# 九九指導Q&A

Q4

クラス全体で九九の学習をするのに  
よいツールはありますか?



A4

フラッシュカードでみんなで学習!



フラッシュカードを使うと、クラス全体で九九の学習ができます。授業の最初や最後、そのほかの空き時間にさっとう行うことができますね。

紙のフラッシュカードを自作したり購入したりすることもできますし、「九九のカード」の付録の「デジタル九九のカード」を活用することもできます。「デジタル九九のカード」を使う際は、パソコンを電子黒板や大型テレビに接続して大きく映しながら、クラス全員で取り組みましょう。デジタル教材を使うことで、児童の視線を集中させることができます。

もうひと工夫!

「デジタル九九のカード」を使うと、正順・逆順・ランダム of 3つの順番や、めくる速さを簡単に変更することができます。フラッシュカードをめくる作業はデジタルに任せられるので、その分先生は気になる児童の横について指導をすることもできますね。